

としょ館たより 令和2年度 第1号

令和2年5月下旬

新1年生の図書館オリエンテーションをしました！

4月16～17日にかけて、新1年生に向けて図書館オリエンテーションを行いました。

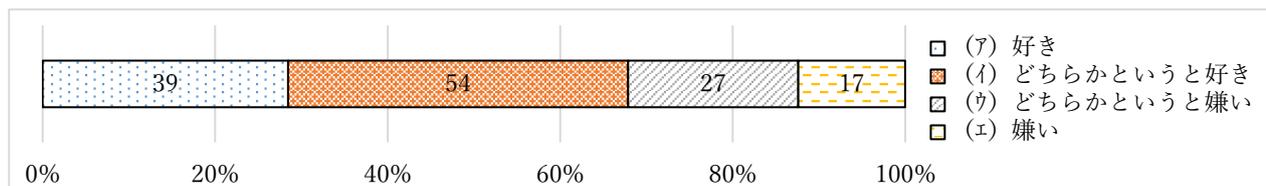
「3年間翔陽高校図書館を活用して充実した高校生活を送るため、まずは翔陽高校図書館を知る！」ことを目的に、最初は工業棟実習室で学校司書から図書館の解説です。途中、〇×クイズをしながら、図書館のルールや翔陽高校図書館について学びました。後半は実際に図書館内を散策し、読みたい本を探しました。新型コロナウイルス感染防止のため、人数の多いクラスは散策&本探しとアンケート記入&図書館ガイドを読む2班に分かれました。そのため図書館散策に十分な時間が取れませんでした。これから3年間という長い時間があるので、しっかりと図書館を利用してほしいと思います。



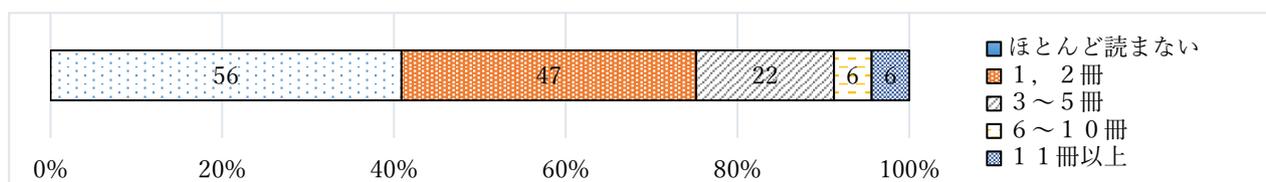
図書館散策。
面白そうな本あるかな!?

新入生図書館アンケートより（回答者数：137人/140人中）

(1) 読書は好きですか？



(2) 1ヶ月に平均何冊くらい本を読みますか？



読書が「好き」「どちらかという好き」という人は67%、けれど「ほとんど読まない」「1, 2冊」という人は75%でした。好きでもなかなか本を読む時間がないのでしょうか。ぜひ、朝読書の時間を利用して、本を読んでほしいと思います。読書が好きではないという人も、4万冊の図書館の本の中には、きっとあなたの1冊があるはず！ぜひ見つけに来てください。

裏面は

これ、読みました！コーナー

です

図書館の本を読んだ人に「これ、読みました！カード」で紹介してもらおうと企んでいます。まずは先生方の「これ、読みました！」です。

コロナ禍で、家で過ごす時間が増えています。ぜひ、この機会に印象に残る、思い出になる1冊を自分のものに！

紹介してくれた先生、分かるかな？ 答えは図書館で展示をしているから見に来て！

S先生

『 流浪の月 』
 凧良（なぎら）ゆう著
（東京創元社）

「今までにないすごいものを読んだな」と思います。
恋愛小説でもないのですが、こんなカタチのものもあるんだなと感動しました。この本を読んで、何かを救われる人もいるのではないのでしょうか。是非一読してほしい。

（左とは違う）S先生

『 方言でたのしむイソップ物語 』
 安野 光雅 著（平凡社）

あー楽しかった。津和野弁も盛りだくさん♪
わけのわからん解題（話の解説）もあったけど、その「わからなさ」も含めて楽しめた。だいたい、94歳の著者の考えを、私なんかがかささと理解できるわけもない。
これはいつか教材にしたいなあ。それで、みんなでおチを考えたい。だからみんな、読まないで。いや読んで。むしろ私の前で朗読してくださ〜い。

図書館住民の「これ読みました！」

住民Aより

『 ライオンのおやつ 』
 小川 糸 著（ポプラ社）

朝読にはおススメしません！っていうと、びっくりするかな？ これは小説なんだから…と自分に言い聞かせても、箱ティッシュが1/3くらいなくなりました。最後にお父さんが現れた時がいちばんキマシタ● ワンピース買う時に、「ちがうでしょ！」と言ったのは誰だと思いますか？ 私はきっと…あの人だと思うな。

『 かがみの孤城 』
 辻村 深月 著（ポプラ社）

学校っていうと、何でこんなに息苦しいんだろう？ ころころの気持ちごとってもリアルだった…萌ちゃんのバツサリが爽快！ でも何でずーっと変わらないんだろう？ 今回の主人公は、ころろ？と思いきや、もしかして同い年の…？ 今の大人も中高生時代は、皆と同じ（悩み etc.）だったんだよね。また泣いたよ●

『 アヴェ・マリアのヴァイオリン 』 香川 宣子 著（角川文庫）

アヴェマリアって何曲もあるってご存知ですか？ 私に浮かんだのはピアノの練習曲にあったグノーでした。他にカッチーニもよく聞きますね。でもここで流れてくるのはシューベルトの調べ…これが、ハンナの命を守るのです。でも何で？ どんなに残酷な人間でも、音楽の前には、仔犬同然になるから。練習がんばろっ！！

住民Kより

『 地獄の楽しみ方 』
 京極 夏彦 著（講談社）

「言葉」とどう付き合っていくか、ということを手がかりに、作家が教えてくれる本です。けれど私が一番印象に残ったのは「僕がこれから話すことは、役に立つことではありません」という言葉。「役に立てるためにはどうしたらいいかを考えてください」。物事に向き合うときの姿勢を教えてくださいました。

『 カザアナ 』
 森 絵都 著（朝日新聞出版）

万象を読む異能の者たち「風穴」……あり得ないけどちょっとウラヤマシイ。行き過ぎた観光立国、ドローンカイトによる監視やMWシステムによる管理……あり得えそうでちょっとコワイ。そんな社会に生きにくさを感じている里宇たち家族が「風穴」たちとともに一石を投じます（ささやかだけど）。里宇のママ（母）がカッコイイです！